ポラリス

札幌社会保険総合病院　院外広報誌

第15号
2010年1月

●新年のご挨拶
チームでめざすこれからの医療
—良質で安全な医療サービスの提供のために—
●医療の現場から① ②
●当院の医療安全の取り組み
●こんにちは、医療連携室です　No.12
●優良給食施設として
『北海道知事賞』を受賞しました
●第11回調理技術勉強会
●クリスマスの夕べを終えて

ポラリスの由来

ポラリスは北極星を意味します。当院の前身である北辰病院の北辰もまた、ポラリスと同じ北極星を意味する言葉なのです。北極星のように、北国の中心で悠久に燦然と輝き続けたいという願いが込められているのです。
題字は秦院長の直筆です。

全社連
URL　http://www. sapporo-shaho. jp/

新年のご挨拶

チームでめざすこれからの医療 ― 良質で安全な医療サービスの提供のために ―

病院長　秦　　温　信

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、さわやかな新年を迎えられたことと存じます。当院として昨年さまざまな課題に取り組み、一定の成果をあげることができましたのも、皆様のご支援があったからに他なりません。心から感謝申し上げたいと思います。

昨年は、9月12－13日当院が担当して日本禁煙学会学術総会がシェラトンホテル札幌で行われましたが、会期中ホテルは全客室も含め全面禁煙（全国初です）にしていただき、盛会裡に終えることができました。

今年は、第12回日本医療マネジメント学会学術総会の大会長を指名され、6月11日（金）、12日（土）の2日間にわたり札幌で開催させていただくことになりました。本学会学術総会が初めて北海道で開催されることになりますが、職員一同鋭意その準備を進めているところです。

本学会は、1999年初足以来「クリティカルパス」を主軸に「医療安全」「医療連携」「医療の質」といったテーマに取り組み、大きな成果を挙げてきております。

今回は表題のように「チームでめざすこれからの医療 ―良質で安全な医療サービスの提供のために―」をメインテーマといたしました。あまりに激しい医療制度の変化や経済環境の変化の中でややもすると良好なチーム形成に困難を感ずることが少なくないと思いますが、このような時だからこそ山積する現場の課題を見直しつつ医療従事者のみならず、市民や行政も一体となって「チーム医療」を推進する必要があると考え様々な企画を予定しております。また、市民公開フォーラムも予定しておりますので多数のご参加をお待ちしております。

今年こそ何か素晴らしいことが起こることを皆さんと共に期待したいと思います。そして今年も道央圏唯一の地域支援病院としてさらに質が高くかつ安全な医療圏を目指し、職員が一体となって全力を注いで行きたいと思っております。

2010年が皆様にとって幸せな一年であるようお祈りいたします。

第12回 日本医療マネジメント学会プログラム

●理事長講演 「日本医療マネジメント学会からの情報発信」
宮崎　久義（日本医療マネジメント学会 理事長）
●会 長 講 演 「ベンチマーク分析によるDPCの評価－クリティカルパスへの応用－」
秦　　温信（札幌社会保険総合病院 院長）
●招 待 講 演 「EBMに基づく患者中心の医療チームマネジメント」
上野　直人（MDアンダーソン癌センター 教授）
●特別講演（順不同）
1.「空白の27時間－歩兵第5連隊山口少佐の死と立見第8師団長－」
松木　明知（弘前大学大学院医学研究科 名誉教授）
2.「医療提供体制の変遷とこれから」
伊藤　雅治（全国社会保険協会連合会 理事長）
3.「医療提供体制の今後の方向」
新村　和哉（厚生労働省医政局指導課 課長）
●教育講演（順不同）
1.「関節リウマチ：治療変革時代の到来」
小池　隆夫（北海道大学大学院医学研究科内科学講座 免疫・代謝内科学分野 教授）
2.「良い医者を社会に送りだすために－北大病院第一外科の試み－」
藤堂　　省（北海道大学大学院医学研究科消化器外科・一般外科 教授）
3.「医療における受け手と担い手との“共同行為”が成り立つために（仮）」
石垣　靖子（北海道医療大学大学院看護福祉学研究科 教授）
4.「北海道大学病院の新たな挑戦」（仮）
浅香　正博（北海道大学病院 院長）
●市民公開講座（順不同）
1.「鳥、ブタ、そしてパンデミックインフルエンザ」
喜田　　宏（北海道大学大学院獣医学研究科 教授）
2.「2.5人称の視点」（仮）
柳田　邦男（ノンフィクション作家）
●シンポジウム
1. 緩和・在宅のチーム医療
2. 救急医療におけるチーム医療　（一部公募）
3. チームでめざす医療安全（仮）
4. がん診療におけるチーム医療－地域連携クリティカルパスの運用の実際と課題－
5. 脳卒中におけるクリティカルパス（仮）
6. 地域連携システムと地域での診療情報の共有（仮）（一部公募）
7. チーム医療とIT―電子カルテは本当に便利なの？
8. 総合的口腔ケアをめざすチーム医療（仮）
9. 医療連携の人材育成と評価（仮）（一部公募）
10. 地域医療連携室のネットワーク
11. 医療コンフリクト・マネジメントとADR
12. クライシスマネジメント（仮）
13. 医療マネジメントと物流管理
14. 新人看護職員（とくに看護師）の臨床研修の課題と展望～制度化・必修化に向けて～
●パネルディスカッション
「つなげよう－栄養管理、地域医療を“かたち”にしよう」（仮）
●教育セミナー（順不同）
1.「クリティカルパスの作成と見直しの実際」
2.「RCAの実際」
●特別シンポジウム
「医療大乱を考える　そして、医療マネジメントの可能性を探る」
●特別企画
「医療崩壊から医療再生へ」
●特別セミナー（順不同）
1.「チームでめざすこれからのがん治療－日本におけるチームビルディングのコツ－」
2.「DPCデータの医療マネジメントへの応用」
●一般演題（口演・ポスター）※公募
●クリティカルパス展示※公募
●ランチョンセミナー

医療の現場から①

転ばぬ先の骨粗鬆症治療

整形外科　中野宏昭

『骨粗鬆症』という言葉は多くの方がご存じでしょう。『骨がもろくなる病気』というくらいのこともそれなりに知れ渡っているでしょう。しかし『骨がもろくて何が危険なの？』という質問に正しく答えられる人はそう多くはないのではないでしょうか。『骨折するから危険』という回答では△です。

本当の危険は骨折のその先にあります。体力のある若者にとっての単純な骨折は「不運なケガ」であり、手術とリハビリによりケガの前と同等かそれに近い状態に回復することが期待できます。しかし、高齢者にとっては例え単純な骨折であっても「命に関わる大ケガ」となり得るのです。驚かれるかもしれませんが決して大袈裟な表現ではありません。

高齢者が転倒した際に起きやすい骨折の代表である、足の付け根の骨折（大腿骨頚部骨折）では、骨折のない同性・同年代の老人ホーム入居者より1年後に亡くなっている可能性が10%高いとするデータもあります。骨折を契機に寝たきりとなり、寝たきり生活から認知症が進み、食事もままならず誤嚥性肺炎を起こす。肺炎は日本人の3大死因「ガン・心疾患・脳卒中」に引き続く死因第4位です。死に至らないまでも介護を要するようになる原因として、第1位の脳卒中に次いで多いのも骨折（と老衰）です。

つまり、『骨がもろくて何が危険なの？』の正解は『骨折で痛くて不便な生活を強いられるだけでも不運なのに、そのまま寝たきりになってしまうかもしれないから危険』なのです。

当たり前のことですが、誰も転びたくて転ぶ人はいません。転んで骨折した人は皆、転びたくもないのに転んでしまって骨折しているのです。「転ばぬ先の杖」は重要ですが、転んでも骨が折れずに済むように「転ばぬ先の骨粗鬆症治療」も同時に行うようにしましょう。まずは健診などで骨密度を測定し（もちろん直接整形外科を受診しても構いません）、治療を開始すべきかどうか整形外科医に相談してみてください。

医療の現場から②

あなたはピロリ菌を飼っていますか？

消化器科　高橋正和

消化器科の高橋正和です。今回は最近新聞などでも見かけるピロリ菌についてお話いたします。

ピロリ菌とは胃の中に住みついている細菌ですが、ピロリ菌に感染している人と感染していない人がいます。ピロリ菌に感染しているかどうかを調べるには、内視鏡検査、血液検査、尿検査、便検査および尿素呼気試験など様々な方法がありますが、内視鏡検査を行うことが望まれます。なぜなら他の方法ではピロリ菌が存在したとしても除菌対象であるかが分からないためです。ピロリ菌に感染していても、胃潰瘍または十二指腸潰瘍を伴わない場合は（保険適応上）ピロリ菌の除菌はできません。

胃潰瘍または十二指腸潰瘍を伴ったピロリ菌感染者は除菌の対象となります。除菌治療は1種類の胃酸抑制剤と2種類の抗生物質の3剤を朝と夕方の1日2回、これを1週間服用します。この治療を一次除菌といいます。この治療により約80%の患者さんがピロリ菌を除菌できます。除菌できなかった患者さんは、この抗生物質の1種類を変更して再度3剤を1週間服用します。これを二次除菌といいます。この治療でそのうちの80～90%の患者さんが除菌に成功します。

除菌治療の副作用としては下痢・軟便、味覚異常などが起こり得ますが、どちらも一時的なものと考えられております。また、ピロリ菌に感染している時は胃酸分泌が抑制されており、除菌で胃酸分泌が正常に戻ることにより逆流性食道炎が起こることもありますが、こちらも一時的であることが多いといわれております。

ところで潰瘍のないピロリ菌感染者は基本的には除菌を行うことができませんが、ある一定の条件においては、ピロリ菌の除菌が胃癌の発症リスクを低下させることも証明されております。これらに関して詳しく説明を聞きたい方や、潰瘍はないけれどどうしても除菌を行いたいという方は、ピロリ菌専門外来のある病院（北大病院など）でご相談ください。まずはピロリ菌感染の有無、潰瘍の有無を確認するために、みなさん勇気を出して一度内視鏡検査を受けてみましょう。

当院の医療安全の取り組み

安全管理部　石　井　美穂子

毎年、11月25日を含む1週間は厚生労働省で定める医療安全推進週間です。当院もそれに合わせて、2009年11月20日から30日まで、1階エントランスホールでポスター展を開催し、当院の医療安全の取り組みを患者様にご紹介しました。職員には医療安全の自己点検を実施して、医療安全に対する認識を再確認しました。また、11月25日には医療安全推進週間にちなんだ研修会を企画し、今年は、むつ総合病院から、お二人の講師をお招きして、「1．医療安全カルタのＰＣスクリーンセーバーとしての活用法」と、「2．安全の定量」について講演をしていただきました。1演題目は、むつ総合病院の職員から募集した安全の標語をもとに、職員が写真を撮りカルタにして、各部署のパソコンのスクリーンセーバーに活用していることがお話しされました。職員を巻き込んで安全カルタを作成し、カルタをＰＣのスクリーンセーバーにしたことが、安全に対する職員の意識の向上につながっているとのことでした。2演題目は、安全の定量について聖書のマタイによる福音書10章を引用しながら、お話ししていただきました。むつ総合病院の取り組みについては、当院の医療安全活動の参考にさせていただこうと思っています。今回の講演会には、院外からも、たくさんの方が出席してくださいましたことを、この場をお借りして感謝いたします。ありがとうございました。

ここで少し、当院の医療安全の取り組みについて、ご紹介いたします。ここ1年程の大きな出来事として、昨年の12月からインシデント報告システム（セーフマスター）が導入されました。インシデント報告は、多くの病院で既に導入されていると思いますが、日常の医療を行う中でひやりとしたりハッとした事例や、間違えが起こってしまい、患者様に影響が生じた事例などを職員が報告するものです。この報告から、なぜ間違えが起こってしまったのかの要因を明らかにして、今後同じ間違えが起こらないように、対策を検討、実施し、大きな事故に発展しないようにしています。もともと、当院でもインシデント報告制度はありましたが、昨年からセーフマスターというシステムを電子カルテ上に導入することで、更に職員の安全に対する意識の向上につながり、積極的な報告がされているところです。

当院の安全管理部では、毎週報告されたインシデントについて確認、検討し、マニュアルの整備や、病院全体のシステムの変更、医療機器や医療材料の安全性の検討、研修の企画・実施等を行っています。その一部をご紹介しますと、流量設定間違えやルート類のセット間違い等のエラーが起こらないように、輸液ポンプやシリンジポンプの使用方法について、ＭＥ部と共に研修会を実施したり、正しく安全に使えるよう、看護技術マニュアルの改定を行いました。感染管理委員会とともに、針捨てボックスを安全で使いやすいものへ変更したり、血糖採血穿刺器具を患者様も医療者も安全に使用できるように変更を行いました。患者誤認防止、部位誤認防止についてのマニュアルも、安全管理マニュアルに追加しました。確認したつもりでも、別の患者さんに薬を与薬しそうになったり、お名前を呼んで診察室にご案内した患者様がよく似た名前の患者様だったり、時々ドキッとするような事例が報告されます。患者様にも何度もお名前をお聞きしていますが、これは患者誤認防止のために重要な確認をさせていただくためのものです。ぜひご理解とご協力をよろしくお願いいたします。この他、看護局の看護安全委員会のメンバーと院内のラウンドを行ってＫＹＴ（危険予知）活動を行い、危険個所の点検や改善を行っています。

職員全員で、重大な事故の発生を予防し、安全で安心な医療を提供していけるように、今後もさらに努力していきたいと思っています。

こんにちは、医療連携室です　No.12

医療法人社団　堀江外科

あけましておめでとうございます。昨年も、多くのご依頼を頂き心よりお礼申し上げます。本年も皆様とともに、より充実した地域医療を目指すべく医療連携室では、地域でご活躍されている先生方を皆様にご紹介し、更なる連携に貢献していきたいと考えております。

第１回目の今回は、平成９年より札幌市医師会厚別区支部長を務められている堀江外科の院長堀江洋三先生にお話を伺いました。

院内は採光を充分に取り入れた受付ロビーと廊下があり、患者様の診療には、堀江先生と看護師3名、物理療法士1名、事務員3名が対応しておられます。

院長　堀江洋三先生

●病院の特徴について教えてください

外科・整形外科・胃腸科・肛門科を標榜し、厚別南2丁目に開業して25年目になります。最初は救急災害を主に診ておりましたが、近頃は専ら家庭医としての役割を果たすように努めております。病気や怪我の事ならば、何でもご相談に応じておりますが、必要があれば医療連携室を通じ、厚別医療圏のセンター病院である札幌社会保険総合病院のバックアップを直ちに受け、最新・最高の医療を提供致しております。

堀江洋三先生、ご協力頂きありがとうございました。今後もより充実した医療連携に努めて参りたいと思います。何卒よろしくお願いします。

〒004-0022
札幌市厚別区厚別南２丁目18－12
ＴＥＬ　０１１－８９１－５３３１
ＦＡＸ　０１１－８９５－３１１７

優良給食施設として『北海道知事賞』を受賞しました

●栄養部●

表彰状を受けた中川科長(右端)

栄養部からのお知らせです。このたび、当施設での給食が「優良給食施設」として『北海道知事賞』を受賞しましたので、報告させていただきます。平成21年度秋期全道栄養士研修大会（開催日：平成21年10月17日、主催：社団法人北海道栄養士会）の会場において、毎年、北海道社会貢献賞（食生活改善功労者）と北海道知事賞（優良給食施設）の受賞式があるのですが、当施設の給食が北海道優良給食施設として北海道知事賞をいただきました。写真は表彰状を受けた当院栄養部中川科長と、賞状を持って写っているのは橋本給食係長と㈱日総の管理栄養士西沢さんです。

橋本給食係長(右)と
㈱日総の管理栄養士西沢さん

これからも今回の受賞に恥じぬよう、患者様に喜ばれる食事、安心の食事を提供するために邁進していきたいと思います。

第11回　調理技術勉強会

栄養士　長谷部　久美子

平成21年9月30日(水)当院「レストランはまなす」にて第11回調理技術勉強会が開催されました。

今回のテーマは「メタボ解消～バランスの良い食事」と題し、食種はエネルギーコントロール1760kcalでエネルギー600kcal・蛋白質25ｇ・塩分3ｇ以下・材料費400円以内の設定で調理師、栄養士各1名がチームを組み、5チームにより日頃の調理技術の腕を競い合いました。大勢の職員の方々にご参加頂き、各チームの作品を試食、批評を頂きました。

宮竹調理師・長谷部栄養士ペア

メタボリックシンドロームの予防・解消には第一にバランスの良い食習慣が基本となっています。各チームともに「味付け・盛り付け・色彩・病院適用性」を工夫し、色鮮やかな献立が並びました。

今回最優秀賞を頂いたのは「かみ噛み満足!!秋の彩りバランスらんち」（調理師宮竹・栄養士長谷部）の献立です。「食事を良く噛んでゆっくり食べること」によって、ゆるやかな消化吸収で満腹感を得ることが出来ます。この「噛むこと」、咀嚼を題材にして秋の食材を使用した調理方法・献立内容を工夫しました。

主食は梅じゃこ玄米ごはんで、食物繊維を多く含む玄米入りにすることにより、よく噛み、主菜の旬の秋鮭・副菜の秋大根・収穫時期であるサラダの豆類、きのこ類など旬の食材をゆっくり味わうことが出来るようにと考えました。食材の切り方や調理方法で咀嚼を意識したものに仕上がりました。

今回の最優秀作品は11月11日(水)の昼食に実施されました。今後も調理技術のさらなる向上を目指すとともに、患者様の喜ばれる給食を提供してまいります。

最後にお忙しい中、審査員として参加してくださった皆様をはじめ、多くの方々に参加していただけたことを感謝致します。

かみ噛み満足!!
秋の彩りバランスらんち

＊梅じゃこ玄米御飯
＊秋鮭のポン酢バターソース
＊マーボー大根
＊びーんずサラダ
＊すまし汁
＊ミニあんみつ

クリスマスの夕べを終えて

医事課　渡　邉　彰　美

12月初め、玄関横のロビーにクリスマスツリーが飾り付けられ、12月21日、クリスマスの夕べが行われました。（当院のツリーは、小さなサンタのぬいぐるみがたくさん乗っています。かわいいんです）。

当日、バイオリン・ピアノ演奏の有路さんと松原さん、とわの森三愛高校ハンドベル部に来ていただける予定でしたが、ハンドベル部がインフルエンザのため出演できなくなり、急遽北星学園大学のゴスペルチームに来ていただくことになりました。ハプニングもありましたが、静かなロビーに響くバイオリンの音色は心を落ち着かせてくれましたし、ゴスペルではクリスマスらしい楽しい気分にさせてもらいました。

最後にいよいよ、私の出番です。サンタです。ちょうどそれまであまり降らなかった雪が降った１日でしたので、事務局長の案で到着が遅れていることにし、子供達に「サンタさ～ん!!」と呼んでもらいました。子供の頃、誰もが経験したことのある流れだと思います。

準備にあたる委員の皆様の機転や、プレゼントを渡したときの子供達や患者様の笑顔に気持ちがあたたかくなり、素敵な時間を過ごすことができました。

編集後記

院外広報誌「ポラリス」をご愛読いただきありがとうございます。

「ポラリス」は患者さまや地域の医療機関の皆さまに、当院の情報や医療情報をお知らせするために一年に４回発行している広報誌です。

当院の医師による「医療の現場から」や当院で行なわれたイベント、医療連携でお世話になっている地域の病院紹介などを掲載しております。地域の医療連携を深めるために「ポラリス」が一助となれば幸いです。

今年もよろしくお願い致します。（相川記）

編集委員　相川・小林・有賀・嶋宮・中野渡・新谷・佐藤・細谷・土田・北村

発行責任者：秦 温信
発行：〒004-8618 札幌市厚別区厚別中央2条6丁目2番1号　札幌社会保険総合病院